

# 北見工業大学学報

第281号 (2017年5月号)

## 目 次

入 学 式	平成29年度入学式を挙行	2
告 辞	平成29年度入学式告辞	3
入 試	平成30年度編入学学生募集要項の公表	6
	平成30年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表	7
研 究 助 成	平成29年度科学研究費助成事業内定一覧	10
	平成29年度共同研究の受入状況	13
	平成29年度受託研究の受入状況	15
	平成29年度奨学寄附金の受入状況	16
受 賞	地域未来デザイン工学科 酒井大輔助教が Outstanding Poster Award を受賞	17
諸 報	平成29年度 技術セミナー（技術士養成支援講座）を開講	18
	図書館利用ガイダンスを開催	19
	「図書館活用法」の講習を開催	20
	英語ミーティングを実施	21
	北見市産学官連携推進協議会総会を開催	22
	平成29年度構内美化作業を開始	23
	初任職員研修を実施	24
	平成28年度学長裁量経費採択者による研究報告会を開催	25
	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会を開催	26
	日 誌	4月・5月

## = 入学式 =

### 平成 29 年度入学式を挙行

(総務課)

4月5日(水)、平成29年度入学式が午前10時から北見市民会館で行われました。学部432人、学部編入学4人、大学院博士前期課程107人及び大学院博士後期課程4人に対して、高橋信夫学長が入学許可した後、学長告辞を行い、続いて渡部眞一北見市副市長、小原光一北見商工会議所専務理

事、鳥越廣美同窓会会長及び富田剛夫学生後援会会長から祝辞がありました。

さらに、入学生を代表して、地球環境工学科の加藤大地さんから今後の誓いを込めた力強い宣誓があり、式は無事終了しました。

なお、入学者数は次のとおりです。

#### 学 部

系列名	入学者数(人)
地球環境工学科	194
地域未来デザイン工学科	238
合計	432

#### 学部編入学

学科名	入学者数(人)
機械工学科	1
社会環境工学科	2
電気電子工学科	1
合計	4

#### 大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機械工学専攻	18
社会環境工学専攻	21
電気電子工学専攻	14
情報システム工学専攻	17
バイオ環境化学専攻	16
マテリアル工学専攻	21
合計	107

#### 大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	1
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	2
医療工学専攻	1
合計	4



入学生代表宣誓

## = 告辞 =

### 平成 29 年度入学式告辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

北見工業大学の教職員、学生を代表いたしまして、皆さんのご入学を心から歓迎いたします。

そして、これまで皆さんを育て、温かく見守ってこられたご関係の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

本日はご多用にもかかわらず、北見市副市長の渡部様、北見商工会議所専務理事の小原様、同窓会会長の鳥越様、そして学生後援会会長の富田様にご臨席を賜り、入学式を挙行できますことに感謝申し上げます。

今年度は学部には 432 人の新入生と 4 人の編入生が入学されました。その中には 4 人の海外からの留学生が含まれます。

さて、入学生の皆さんが学生生活を営むことになるこの北見市の周辺には、世界自然遺産に登録された「知床国立公園」をはじめとして 4 つの国立公園があります。

北見市はこのような豊かな自然環境にあるオホーツク地域の中核都市で、晴天の日が多い爽やかな土地です。本学は、そのような自然環境に恵まれた北見市に 1960 年に設立された工科系大学で、「自然と調和するテクノロジーの発展を目指して」の標語を掲げ、特色ある教育・研究を進めてきております。

しかしながら、少子高齢化をはじめとして近年の社会情勢の変化は益々激しくなり、地方の国立大学である本学は、これからの教育・研究面において、本学としての特色をこれまで以上に明確にする必要があります。

本学の特徴としましては、先程申し上げ

た「恵まれた自然環境」が一つです。そしてもう一つの特徴は、他の多くの工業大学がいわゆる「工業地帯」に立地するのに対し、本学は農業をはじめとする「一次産業」を基盤とする地域に立地することです。

このような特徴を背景に、本学はこの 4 月に学士課程の改組を実施し、これまでの 6 学科体制を 2 学科に再編しました。二つの学科の名称は「地球環境工学科」と「地域未来デザイン工学科」です。

先の 20 世紀は、鉱工業が飛躍的に進展し、大量のエネルギー消費と大量の工業製品の生産が進みました。しかしその結果として、この 21 世紀には地球温暖化をはじめとして、大量の廃棄物処理など、たくさんの解決しなければならない地球環境問題が残りました。この地球環境問題は世界的な課題であり、どの産業分野においても必ず取り組まなければならない重要な課題となっています。

「地球環境工学科」では、これまでの学問体系である「機械」「電気・電子」「情報」「化学・材料」「土木」等、基幹の「分野」を基盤とした上で、異なる分野間の連携のもと、総合的に地球環境問題・エネルギー問題に取り組む仕組みを導入しています。

また、一次産業を基盤とするオホーツク地域に立地する本学としては、「工学技術」をもって「一次産業」を支援し、そのことにより「地域」の活性化、そして発展に貢献することも一つの重要な使命であります。加えて、本学の有する工学的基盤を総合的に活用し、魅力ある地域社会を構築することも重要になります。

「地域未来デザイン工学科」では、やは

り従前の学問体系を基盤としつつ、様々な地域課題を教材として、その解決に向けて積極的に取り組みます。そして皆さんには、これからの技術者に求められる「幅広い視野」を身につけ、「地域」ばかりでなく、広く「日本」そして「世界」で活躍していただくことを意図しております。

今回の2学科への改組は、「本学のミッションの再定義」及び「本学が重点を置く、果たすべき役割」を踏まえた上で、「北見工業大学」としての方向性を明確にしたものです。加えまして、近年のITの目覚ましい発展に伴い、社会情勢が大きく変化するとともに、学問分野においても異なる分野間の連携による新たな学際領域への取り組みも重要となってきています。今回の新たな仕組みの導入は、そのような新しい動きにも柔軟に対応できる体制を目指してしています。

この学科改組につきましては、多くの批判的意見があったのも事実です。その代表的なものは、「それぞれの学科で、何が学べるのか、よくわからない」というご意見です。入学された学生の皆さんの中にも不安をお持ちの方がおられると思います。

この点につきまして「誤解されがちな点」について若干の説明をさせていただきます。新たな仕組みは、決してこれまでの学問体系の重要性を否定するものではありません。例えば、入学時の現段階において、従前の「機械工学科」で学べた「機械工学」を学びたいと強く考える学生もいると思います。そのような強い希望を持った学生は、これまでと同様にしっかりと「機械工学」を学べるようになっていきます。他の分野についても同様です。

その一方で、現時点で進みたい方向が十分に確定していない学生もいることと思

います。そのような学生は、一年次の科目を通じて、先程申し上げた「これからの時代に重要となってくるであろう、学際領域の分野」を含め、自分に適した進路を選ぶことができ、自分に相応しい工学を身につけることが可能となります。これらの点につきましては、明日以降の学科ガイダンスにおいて良く耳を傾け、新しい仕組みをしっかりと理解していただきたいと思います。

今回の学科の再編は、確かに大きな改革です。しかし、皆さんは様々な不安を乗り越えて本学を選んでくれました。皆さんのチャレンジ精神に敬意を表したいと思います。そして、皆さんの期待に応えるために、私ども教職員は一丸となって新しい学科の魅力あるものにする所存であります。その際、皆さんの力が是非とも必要になります。力を合わせて魅力ある「北見工業大学」を創りましょう。

さて、大学院に関しましては、前期課程に107人、後期課程には4人が入学されました。皆さんの大学院へのご入学を心から歓迎いたします。その中には2人の海外からの留学生が含まれます。ご入学おめでとうございます。

皆さんには、これまでの勉学を通じて修得した知識を基盤として、さらに応用開発に展開できる実践的な能力や、より高い問題解決能力を身につけていただきたいと思います。その際に、ご自分の専門分野以外についても興味を持ち、幅広い視野を培ってください。そして、科学技術立国を標榜する我が国において技術集団の核となり、次の時代を切り拓く人材となられることを心から期待しています。

さて、大学という場所は当然のこと、本来の学業にしっかりと取り組む場所ですが、それに加えて様々な観点におきまして、人

間的に大きく成長するための場所でもあります。本学において過ごす時間は皆さんにとって大変貴重な時間です。時間を有効に使うとともに、多くのことにチャレンジして自分を大きくするよう取り組んでいただきたいと思います。皆さんがこのような貴重な時間を持つのも周りの方々のご理解とご支援があつてのことです。周りの方々

への「感謝の気持ち」を忘れることなく過ごしていただきたいと思います。

結びになりますが、入学生の皆様には、まずは健康に注意して、充実した学生生活を送られることを心から願って歓迎の挨拶といたします。

改めまして、入学おめでとうございます。

平成 29 年 4 月 5 日  
北見工業大学長 高橋 信夫



= 入 試 =

平成 30 年度編入学学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 30 年度編入学学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

選 抜 の 種 類	推薦入試・学力試験入試・社会人特別入試		
学 科 及 び 募 集 人 員	工学部全学科 第 1 次募集 推薦入試 10 人 学力試験入試及び社会人特別入試 若干人 第 2 次募集 推薦入試・学力試験入試 未定		
出 願 資 格	<p>推薦入試</p> <p>(1) 高等専門学校・理工系の短期大学を平成 30 年 3 月卒業見込みの者（ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 30 年 9 月卒業見込みの者）</p> <p>(2) 学校教育法第 132 条に規定する専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が 1,700 時間以上であるものに限る。）を平成 30 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）</p> <p>(3) 学校教育法第 58 条第 2 項に規定する高等学校の専攻科の課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を平成 30 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）</p> <p>学力試験入試</p> <p>(1) 大学を卒業した者又は平成 30 年 3 月卒業見込みの者</p> <p>(2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定に基づき、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者</p> <p>(3) 高等専門学校・短期大学を卒業した者又は平成 30 年 3 月までに卒業見込みの者（ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 30 年 9 月卒業見込みの者） 等</p> <p>社会人特別入試</p> <p>入学時において企業等に正規の職員として 2 年以上在職中で、在職のまま入学することができ、所属長からの推薦がある者で、次のいずれかに該当するもの</p> <p>(1) 理工系の高等専門学校を卒業した者</p> <p>(2) 理工系の短期大学を卒業した者</p> <p>(3) 大学・学部の理工系学科を卒業した者又は大学・学部の理工系学科に 2 年以上在学し、62 単位以上を修得し退学した者</p>		
出 願 期 間	第 1 次募集	推薦入試・社会人特別入試 学力試験入試	5 月 10 日（水）～ 5 月 16 日（火） 6 月 6 日（火）～ 6 月 12 日（月）
	第 2 次募集	推薦入試・学力試験入試	10 月 18 日（水）～10 月 24 日（火）
試 験 日	第 1 次募集	推薦入試・社会人特別入試 学力試験入試	5 月 31 日（水）（面接） 6 月 28 日（水）
	第 2 次募集	推薦入試・学力試験入試	11 月 14 日（火）
合 格 発 表	第 1 次募集	推薦入試・社会人特別入試 学力試験入試	6 月 7 日（水） 7 月 12 日（水）
	第 2 次募集	推薦入試・学力試験入試	12 月 13 日（水）

## 平成 30 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 30 年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が公表されました。概要は以下のとおりです。また、平成 29 年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成 30 年度入試の第 1 回募集と同一日程で実施されます。

### 平成 30 年度大学院工学研究科博士課程

	博士前期課程	博士後期課程																																									
専 攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻																																									
選 抜 の 種 類	一般入試（学力試験入試・推薦入試） 学部 3 年次学生対象入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試 高等専門学校専攻科生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試																																									
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般入試</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2" style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> <th style="text-align: center;">推 薦 入 試</th> <th style="text-align: center;">学力 試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械工学専攻</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td style="text-align: center;">11</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">各専攻とも若干人</td> </tr> <tr> <td>社会環境工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学専攻</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>バイオ環境化学専攻</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td>マテリアル工学専攻</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">56</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部 3 年次学生対象入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 社会人特別入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 高等専門学校専攻科生特別入試 各専攻とも若干人</li> </ul>		第 1 回		第 2 回	学力 試験	推 薦 入 試	学力 試験	機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人	社会環境工学専攻	10	10	電気電子工学専攻	10	10	情報システム工学専攻	8	8	バイオ環境化学専攻	9	9	マテリアル工学専攻	8	8	計	56	56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般入試</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">第 1 回</th> <th style="text-align: center;">第 2 回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産基盤工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">若干人 各専攻とも</td> </tr> <tr> <td>寒冷地・環境・エネルギー工学専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>医療工学専攻</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人入試 各専攻とも若干人</li> <li>・ 外国人留学生入試 各専攻とも若干人</li> </ul>		第 1 回	第 2 回	生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	医療工学専攻	2	計	8
	第 1 回		第 2 回																																								
	学力 試験	推 薦 入 試	学力 試験																																								
機械工学専攻	11	11	各専攻とも若干人																																								
社会環境工学専攻	10	10																																									
電気電子工学専攻	10	10																																									
情報システム工学専攻	8	8																																									
バイオ環境化学専攻	9	9																																									
マテリアル工学専攻	8	8																																									
計	56	56																																									
	第 1 回	第 2 回																																									
生産基盤工学専攻	3	若干人 各専攻とも																																									
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3																																										
医療工学専攻	2																																										
計	8																																										
出願資格	大学を卒業した者又は平成 30 年 3 月までに卒業見込みの者 等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成 30 年 3 月までに授与される見込みの者 等																																									

出願期間	第1回募集 平成29年6月19日(月)～6月29日(木) (推薦入試の併願を希望する者 平成29年6月12日(月)～6月16日(金)) (出願資格の事前審査 平成29年5月15日(月)～5月19日(金)) 第2回募集 平成30年1月15日(月)～1月19日(金) (出願資格の事前審査 平成29年11月21日(火)～11月28日(火))	
試験日	第1回募集 学力試験 学力検査 平成29年8月28日(月) 面接試験 平成29年8月29日(火) 推薦入試 面接試験 平成29年7月5日(水)  第2回募集 学力試験 平成30年2月6日(火) 面接試験 平成30年2月7日(水)	第1回募集 面接試験 平成29年8月30日(水)  第2回募集 面接試験 平成30年2月6日(火)
合格発表	第1回募集 平成29年9月6日(水) ※推薦入試選考結果通知 平成29年7月12日(水) 第2回募集 平成30年2月14日(水)	第1回募集 平成29年9月6日(水) 第2回募集 平成30年2月14日(水)

平成29年度大学院工学研究科博士課程(秋季入学)

	博士前期課程	博士後期課程
専攻	機械工学専攻、社会環境工学専攻、電気電子工学専攻、情報システム工学専攻、バイオ環境化学専攻、マテリアル工学専攻	生産基盤工学専攻 寒冷地・環境・エネルギー工学専攻 医療工学専攻
選抜の種類	一般入試 社会人特別入試 外国人留学生特別入試	一般入試 社会人入試 外国人留学生入試
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試 各専攻とも若干人</li> <li>・社会人特別入試 各専攻とも若干人</li> <li>・外国人留学生特別入試 各専攻とも若干人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試 各専攻とも若干人</li> <li>・社会人入試 各専攻とも若干人</li> <li>・外国人留学生入試 各専攻とも若干人</li> </ul>



出願資格	大学を卒業した者又は平成29年9月までに卒業見込みの者 等	修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は平成29年9月までに授与される見込みの者 等
出願期間	平成29年6月19日(月)～6月29日(木) (出願資格の事前審査 平成29年5月15日(月)～5月19日(金))	
試験日	学力検査 平成29年8月28日(月) 面接試験 平成29年8月29日(火)	面接試験 平成29年8月30日(水)
合格発表	平成29年9月6日(水)	平成29年9月6日(水)

## 平成29年度科学研究費助成事業内定一覧

○基盤研究(B)一般

(研究協力課)

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
川村 彰	教授	MMS計測点群を直接利用した超写実VR環境の生成と感性情報に基づく走行路面評価	2,080		○
榎井 文人	准教授	カーリングを科学する～情報機械技術を統合した新たな戦術支援の試み	3,250		○
齋藤 徹	教授	界面分離型薬物捕捉場の創成と医療排水処理への適用	2,990		○
田村 淳二	教授	大規模ウインドファームを有する電力系統の総合的安定化	2,080		○
渡邊 康玄	教授	節腹連続河道の形成機構の解明	3,510		○
川村 みどり	教授	高安定銀薄膜の実用化を目指した光学特性評価	2,340		○
小原 伸哉	教授	三相界面構造の最適化によるガスハイドレート生成速度の大幅増加に関する研究	5,850		○
山下 聡	教授	北海道周辺海域におけるメタンハイドレートの生成メカニズムと資源化アプローチ	4,550	○	

○基盤研究(B)海外学術調査

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
大野 浩	助教	地下水コア解析によるアラスカ永久凍土域の環境動態解明－氷床コア研究法を応用して－	8,450		○
南 尚嗣	教授	バイカル湖最古堆積物域に発現するメタンハイドレートの多様性と生成機構の解明	4,680		○

○基盤研究(C)一般

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
駒井 克昭	准教授	寒冷地固有の物質情報を利用した流域の環境動態解析の高度化	1,560		○
川村 武	准教授	UHF帯RF-IDによる車線の情報化と暴風雪悪視界下のナビゲーションシステム	1,040		○
三浦 則明	教授	地表層補償光学に基づく超広視野太陽像回復の効果	1,040		○
兼清 泰正	准教授	多色変化型糖センサーアレイの高機能化と多検体同時検出システムへの展開	780		○
吉田 孝	教授	抗ウイルス性硫酸化糖鎖の生理活性作用メカニズムの解明	1,040		○
武山 眞弓	准教授	3D及び2.5D-ICに適用可能なバリヤレス絶縁膜の低温作製	1,170		○
谷本 洋	教授	確率的フラッシュAD変換器の試作と設計手法の確立	1,690		○
宮森 保紀	准教授	構造全体系サーモグラフィと高密度モード同定によるハイブリッド損傷同定手法の開発	1,300		○
原田 建治	教授	コロナ帯電を用いたソーダライムガラスへのホログラム記録の最適化とその応用	1,040		○
大津 直史	准教授	人工関節予後不良を低減する難剥離性極薄Ag含有アパタイト被膜のワンステップ形成	1,560		○
白川 龍生	准教授	積雪の断熱効果を利用した温度差発電システムの開発とエネルギーの地産地消	1,300		○
佐藤 利次	准教授	RNAi法等によるシイタケ・ラッカーゼの生理的機能及び遺伝子発現メカニズムの解明	780		○
早川 吉彦	准教授	統計的画像処理法と圧縮センシングによるコーンビーム型X線CT画像の高画質な再構成	1,170		○

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
前田 康成	教授	空間的分析と時間的制御を融合した、次世代商品推薦システムのための基礎理論の構築	1,300		○
山田 貴延	教授	エネルギー循環型バイオガス下水処理場への潜熱蓄熱システム導入の試み	650		○
新井 博文	准教授	ハマナス花卉ポリフェノールによるアテローム性動脈硬化症予防作用	1,560		○
野田 由美意	准教授	抵抗か、順応か？——ナチスの芸術政策と「若きラインラント」	910		○
浪越 毅	准教授	らせんポリフェニルアセチレン膜の超高速光環化による超分子自立膜の創製と膜の機能化	1,170		○
松田 剛	教授	高表面積酸化モリブデンの表面改質によるコアシェル型モリブデン窒化物・炭化物の開発	1,950		○
渡邊 眞次	教授	テトラカルボン酸ジエステルの分散重合による全芳香族ポリイミド粒子の合成と機能化	2,730		○
柴野 純一	教授	放射光白色X線による単結晶延性損傷評価法の開発	1,560		○
林田 和宏	准教授	火炎内における酸化履歴が炭素質PMの排出濃度とナノ構造に及ぼす影響の解明	455		○
中村 大	准教授	凍結融解を受ける河川堤防に適した堤体材料の選定法と締固め基準の提案	1,300		○
阿部 良夫	教授	水蒸気の直接噴射による水酸化物薄膜のスパッタ成膜プロセスの研究	1,040		○
曾根 宏靖	准教授	太陽光を用いた省エネ型光通信システムの開発	1,170		○
星野 洋平	准教授	分散配置型マイクロ動吸振器アレイによる超低振動高効率大型ブームスプレーヤの実現	2,080	○	
柏 達也	教授	大規模精密解析に基づくミリ波帯人体ばく露安全性評価と国際標準化	1,690	○	
梅村 敦史	助教	風力発電平均電力の学習予測制御を備えた系統連系インバータの研究	2,210	○	
金 敬鎬	准教授	機能性両面受光型有機系太陽電池の研究	2,340	○	
佐藤 勝	助教	極微細TSVのための界面層フリーな新規バリア材料の開発	2,340	○	
川口 貴之	准教授	寒冷地特有の斜面崩壊メカニズムを考慮した新しいのり面保護工の提案と効果検証	1,950	○	
坂上 寛敏	助教	ガスハイドレート包接炭化水素分子と気相炭化水素分子の交換挙動の解明	2,340	○	
服部 和幸	准教授	低エネルギーで真に実用可能な結晶セルロースの加水分解法の検討	2,210	○	

○挑戦的萌芽研究

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
亀田 貴雄	教授	斑点ぬれ雪の生成メカニズムの解明	650		○
松本 経	研究員	トビ追跡によるカラフトマス産卵場探査と産卵資源予測	910		○

○若手研究 (A) 一般

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
山崎 新太郎	助教	雪上滑走型岩石なだれに関わる岩石と雪の相互作用の解明	2,990		○
小西 正朗	准教授	微生物由来界面活性物質の分子デザイン技術の高度化	4,160		○

## ○若手研究(B)

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
蒲谷 祐一	准教授	指標多様体内の離散表現の形	650		○
プタシンスキ ミハウ	助教	FeelHelper：被害者双方に着目したネットいじめ対策のための技術の開発	780		○
春木 有亮	准教授	近現代フランス習慣論の美学的射程—「創造」と「飽き」	520		○
戸澤 隆広	准教授	縮約関係節と比較節の統語論研究によるラベル決定の仕組みの解明	520		○
大野 智也	教授	多様な炭素資源からの水素製造を指向した次世代触媒の開発	650		○
井上 真澄	准教授	コンクリート表面における亜硝酸イオンの溶出・浸透メカニズムと各種要因の影響	1,300		○
古瀬 裕章	助教	高品質希土類添加透光性アルミナ多結晶体の開発と特性評価	650		○
酒井 大輔	助教	表面構造と内部屈折率分布により実現する新しい反射防止ガラスの創製	1,300		○
富山 和也	助教	生体疲労計測に基づく時間依存性を考慮した合理的な走行路面評価手法の開発	780		○
平井 慈人	助教	金属空気電池に適用できる高性能な触媒材料の合成と触媒活性支配因子の探索	910		○
吉澤 真吾	准教授	水中音響通信方式における耐ドップラーシフト頑健性の研究	910		○
渡邊 達也	助教	岩盤水分量の定量化手法の確立と寒冷地岩盤における水分挙動の解明	1,170		○
小田原 峻也	特任助教	半導体・磁性材料・電気機器の特性を相互に考慮したインバータ励磁損失特性の解明	2,080	○	
崔 希燮	助教	厳冬期の耐寒促進剤コンクリートの膨張収縮およびひび割れ予測手法の開発	1,820	○	
川尻 峻三	助教	河川増水時の橋台背面盛土の浸食・流出機構の解明と粘り強い対策工法の提案	2,470	○	

## ○奨励研究

氏名	職名	研究課題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
白川 和哉	技術員	北見ハッカを利用する初年次基礎実験の構築～伝統と最先端の文理融合テーマ～	520	○	

## 平成29年度共同研究の受入状況

平成29年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
情報システム工学科	准教授	榊井 文人	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究	株式会社AIS北海道
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	教授	三上 修一	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度の実践運用のための共同研究	網走測量設計協会
機器分析センター	准教授	大津 直史	銀徐放性抗菌材料の開発	エビナ電化工業株式会社
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	耐寒促進剤を用いたコンクリートの冬期施工に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	路面雪氷センシング技術の高度化に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
機械工学科	准教授	佐藤 満弘	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	学校法人五島育英会 東京都市大学
社会環境工学科	准教授	舘山 一孝	着氷モニタリングシステムの研究	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構/ 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	積雪寒冷地を対象とした冬期の取水障害の対策技術の開発	新明和工業株式会社
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	結氷河川におけるアイスジャム被害に対応する河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信装置の性能検証	三菱電機特機システム株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
マテリアル工学科	助教	古瀬 裕章	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	国立研究開発法人物質・材料研究機構
機械工学科	准教授	林田 和宏	ディーゼル機関の噴霧計測に関する基礎研究—燃焼解析に活かせる噴霧長・噴霧角・着火位置・蒸気濃度など噴霧特性の計測手法	いすゞ自動車株式会社CAEデジタル開発推進部
マテリアル工学科	教授	渡邊 眞次	香気成分、メントール濃度等 ハッカの育種株評価分析方法の確立	株式会社北見ハッカ研究所
マテリアル工学科	教授	渡邊 眞次	ハッカからの香気成分新規抽出方法の開発	株式会社北見ハッカ研究所
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	河川における土砂の移動特性を考慮した河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所/ 愛知工業大学総合技術研究所
社会環境工学科	教授	川村 彰	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社PROFICT LAB
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	積雪寒冷地における既設補強土壁の健全度評価手法の確立に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	積雪寒冷地河川のアイスジャム予測ツールの開発	北海道開発局旭川開発建設部
機械工学科	特任助教	楊 亮亮	準天頂衛星を用いた除雪作業車両の運転支援システムの基礎研究	株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道
社会環境工学科	准教授	中村 大	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響の解明に関する研究	北海道ガス株式会社 北見支店
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	低温環境下における免震ゴムの性能評価試験	住友理工株式会社 化工品技術部
電気電子工学科	准教授	橋本 泰成	ブレインマシンインターフェースを用いた快適性定量化に関する研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	国立研究開発法人海洋研究開発機構/ 三菱電機特機システム株式会社/ 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所
地球環境工学科	准教授	浪越 毅	玉ねぎ育苗用の培土に使用する固化材や固化方法の検討	森産業株式会社

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
地球環境工学科	教授	南 尚嗣	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
地球環境工学科	教授	南 尚嗣	網走市能取污水处理施設における放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
地球環境工学科	教授	南 尚嗣	網走市における下水汚泥および放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
地域未来デザイン工学科	教授	早川 博	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
地域未来デザイン工学科	教授	早川 博	北見市環境調査研究（大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）	北見市
地域未来デザイン工学科	教授	早川 博	北見市生物調査研究	北見市
地域未来デザイン工学科	教授	黒河 賢二	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
地球環境工学科	教授	大野 智也	N i ナノ粒子へのチタン酸バリウムコーティング技術の開発	株式会社サムスン日本研究所横浜研究所
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	日本アドックス株式会社
地球環境工学科	教授	田村 淳二	パワエレ利用発電機による系統安定化技術に関する研究	株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部
地域未来デザイン工学科	准教授	伊藤 陽司	流体包有物による地下流体の熟履歴の調査	アースサイエンス株式会社
地域未来デザイン工学科	准教授	星野 洋平	南瓜の皮むき機及び収穫機に関する開発	大槻理化学株式会社
地球環境工学科	准教授	林田 和宏	PCVガス除湿システム基礎研究 その5	株式会社ワーカム北海道

※ 前年度からの継続分については、受入時の旧学科名称を表記している

平成29年度累計39件

## 平成29年度受託研究の受入状況

平成29年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
地球環境工学科	准教授	舘山 一孝	Arcs 【「北極域研究推進プロジェクト 北極気候・気象・海洋環境変動研究分野」 「グリーンランドにおける氷床・氷河・海洋・環境変動」	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	円 5,500,000
地球環境工学科	助教	大野 浩	Arcs 【「北極域研究推進プロジェクト 北極気候・気象・海洋環境変動研究分野」 「北極気候に関わる大気物質」	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	4,640,000
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	(SIP) 北見地域におけるアセットマネジメント実装に関する研究開発	国立研究開発法人 科学技術振興機構	2,320,113
工学部	特任教授	大橋 鉄也	(SIP) 疲労と破壊の科学/多種・多相界面とき裂の相互作用シミュレーション	国立研究開発法人 科学技術振興機構	4,600,000

平成29年度累計4件

## 平成29年度奨学寄附金の受入状況

平成29年5月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
					円
地球環境工学科	准教授	大津 直史	銀徐放性抗菌材料の共同開発のため	エビナ電化工業株式会社	1,000,000
地球環境工学科	准教授	高井 和紀	住宅室内空気質の分析調査	特定非営利活動法人 日本VOC測定協会	600,000
地球環境工学科	助教	平井 慈人	学術研究のため	公益財団法人旭硝子財団	2,000,000
地球環境工学科	助教	佐藤 勝	工学研究のため	北見工業大学地球環境工学科	100,000
	学長	高橋 信夫	スーパー連携大学院教育支援のため	株式会社ワークム北海道	150,000
	学長	高橋 信夫	スーパー連携大学院教育支援のため	第一カッター興業株式会社	500,000
地球環境工学科	教授	亀田 貴雄	雪氷学分野の研究奨励	株式会社清月	8,965
地域未来デザイン工学科	准教授	星野 洋平	農作物(南瓜)加工処理機械、収穫機の研究開発	佐呂間町農業協同組合	1,700,000
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援	北見工業大学後援会	492,381
地域未来デザイン工学科	准教授 助教	井上 真澄 崔 希燮	工学研究助成	ドービー建設工業株式会社	250,000
	学長	高橋 信夫	父母懇談会及び就職支援等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	1,500,000
地域未来デザイン工学科	助教	邱 泰瑛	発酵食品由来有用乳酸菌に関する教育研究の奨励助成	株式会社A0B慧央グループ	1,000,000
地球環境工学科	准教授	宮越 勝美	工学研究のため	北見工業大学地球環境工学科	300,000
地域未来デザイン工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	株式会社フジエンジニアリング	500,000
地域未来デザイン工学科	准教授	井上 真澄	コンクリートの凍害とアルカリ骨材反応との複合劣化に関する資料収集	株式会社フジエンジニアリング	1,100,000
地域未来デザイン工学科	教授	渡邊 康玄	WEC応用生態研究助成金 (研究テーマ：ダム下流の河道攪乱を目的とした砂州の発達を促す置き土手法の確立)	一般社団法人水源地環境センター	500,000

平成29年度累計16件



= 受賞 =

## 地域未来デザイン工学科 酒井大輔助教が Outstanding Poster Award を受賞

(地域未来デザイン工学科)

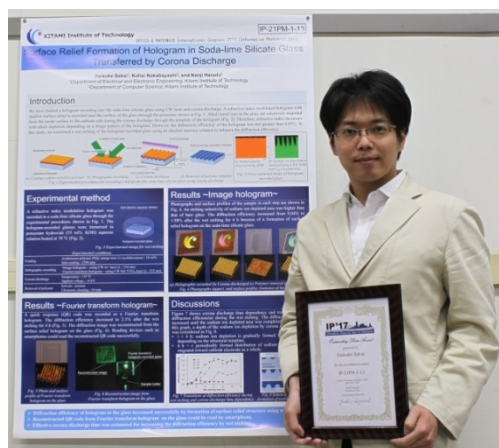
このたび、地域未来デザイン工学科酒井大輔助教は、国際会議 Optics and Photonics international Congress 2017 (OPIC2017) にて開催された Information photonics 2017 (IP2017) にて、Outstanding Poster Award を受賞しました。

OPIC は、光技術を基盤とする学術・産業に関する最先端の研究・開発を発表するための国際会議です。学術発表と技術展示を併設し、光学技術によりもたらされる未来に向け、具体的な指針を得ることを目的として毎年開催されています。その中で行われた IP は情報・フォトンクスに関連する新興分野で、光学を情報社会で役立てるための最先端の技術や機器、応用に関して討論されます。

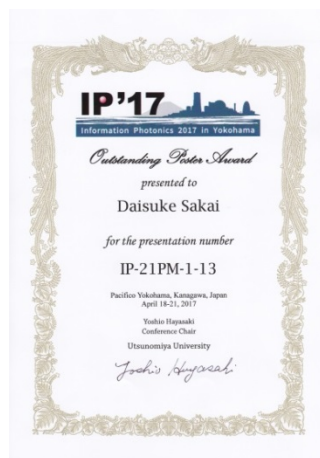
対象となった論文は「Surface Relief Formation of Hologram in Soda-lime Silicate Glass Transferred by Corona Discharge (コロナ放電によりソーダ石灰

ガラスに転写したホログラムの表面レリーフ化)」、発表者は酒井助教、中林滉平さん(大学院博士前期課程2年)、地域未来デザイン工学科原田建治教授です。この研究は、立体像やセキュリティ情報の記録に用いられているホログラムを、身近なガラス材であるソーダ石灰ガラスに記録し、高効率化したものです。これまでに、コロナ放電という微弱な放電を用いることで、透明なガラス内にホログラムを記録できることを報告してきましたが、その明るさを示す効率(回折効率)が低いという問題がありました。今回の発表では、ホログラムをガラスの表面に凹凸化することで、回折効率を飛躍的に高めることに成功しました。

ガラスに記録した情報は、従来の樹脂材料等に比べ非常に安定しており、様々な環境下での利用や、超長期間の情報記録に向けた今後の展開が期待されます。



発表したポスターと酒井助教



Outstanding Poster Award

## = 諸報 =

### 平成 29 年度技術セミナー(技術士養成支援講座)を開講

(社会連携推進機構)

4月6日(木)に北海道教育大学札幌駅前サテライトで、また4月8日(土)に本学第2会議室において、平成29年度技術セミナー(技術士養成支援講座)開講式を実施しました。

本講座は社会人技術者に学びの場を提供するため、本学出身の技術者が講師となり、技術士資格取得希望者を対象に、講義や添削指導により資格取得を支援するものです。平成19年度から毎年開講し、11年間継続して実施しています。これまでに262の方が受講し、33人の技術士合格者を輩出しています。

講座では札幌と北見の2つの会場を設け、4月から7月までの開講期間に計4回の講義を予定しています。開講時間も平日の18

時以降や土曜日の午後とし、社会人が受講しやすいよう設定しています。

本年度は両会場合わせて24人が受講し、帯広等遠方から通う方も複数おり、参加者の技術士資格取得に向けての意気込みが感じられます。

開講式当日は、清野千春研究協力課長による、高橋信夫学長の受講者に対する技術士資格取得に向けた激励文の代読に続き、講師の自己紹介が行われました。

開講式後の講義では、本講座修了の合格者による体験談の報告も交え講義が行われました。

今年度も受講者から多数の合格者が出ることを期待しています。



ガイダンスの様子(札幌会場)



個別相談(北見会場)

## 図書館利用ガイダンスを開催

(情報図書課)

4月17日（月）～19日（水）の3日間、図書館コミュニケーションホールにて、図書館利用ガイダンスを開催しました。

昨年度までは職員がガイダンス講師を務めていましたが、今回はソフトバンクロボティクスの人型ロボット「Pepper for Biz」が講師となり、主に新入生に向けて図書館の使い方を説明しました。Pepperが登場す

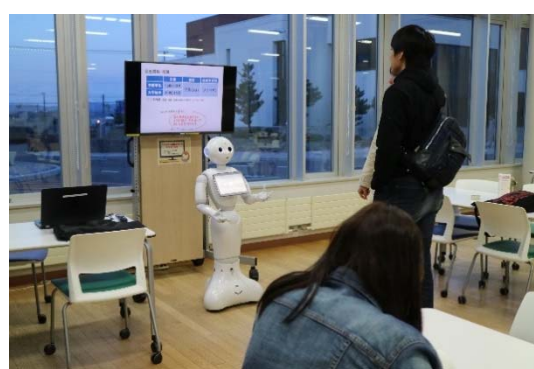
ると学生たちの関心が集まり、Pepperが話す内容に多くの学生が耳を傾けていました。

今後も図書館のことを知ってもらい、多くの方に利用してもらえるよう、講習会などを充実していきたいと考えています。またPepperにも、図書館、そして大学の広報活動に引き続き貢献してもらう予定です。

今後のPepperの活躍にもご期待ください。



ガイダンス講師のPepper



ガイダンスの様子

※ソフトバンクロボティクスの Pepper を活用し、本学が独自に実施しています。

## 「図書館活用法」の講習を開催

(情報図書課)

4月17日(月)から20日(木)まで、「図書館活用法」の講習を全5回にわたって行いました。

昨年まで1年次の一部の学科で行われていた「図書館入門講座」をもとに、今年度から1年次必修科目の「情報科学概論演習」の時間を使用し、学年全体に対して行うことになりました。

当日は図書館職員が講師となり、図書館の施設、資料等の有効活用や学術文献の効率的な探し方等について実習を交えながら説明しました。

このように早い段階から図書館の活用法を学ぶことによって、今後の学修活動に大いに役立てていただけるものと期待しています。



講習会の様子

## 英語ミーティングを実施

(総務課)

4月18日(火)に第1回目の英語ミーティングが開催されました。このミーティングは、三枝広人事務局長が事務職員の英会話能力の向上のために立ち上げたもので、国際交流センター長の外国人教員も参加することでネイティブの英語に触れつつ、毎週開催し英語に慣れることを目的としています。

初回であるこの日は、三枝局長より経緯や目的などが英語・日本語の両方で語られた後、参加者が英語で自己紹介を行いました。参加した2名の教員と16名の職員の中には、海外勤務経験があり、英語が堪能な職員もいれば、逆に、英語を学ぶのは学生以来であり、現在の業務においては英語をほ

とんど使用しない職員もいるなど、英語のレベルは様々でありながら、国際担当のみならず、総務課、財務課、研究協力課、学務課等多様な部署からの参加があり、1時間を超えて行われた英語ミーティングについて、参加者から「とても緊張したが楽しかった。英語を話すことの躊躇が少し薄れたので、継続して参加したい」と好評でした。

今後は、各自の業務に関する話題や予定の報告、三枝局長からの会議等の情報共有を、難しい単語にはこだわらず英語で行うとしており、英語能力の向上のみならず、若手職員と局長の交流の機会として期待されています。



英語での会話を行う参加者

## 北見市産学官連携推進協議会総会を開催

(社会連携推進センター)

4月27日（木）、北見市産学官連携推進協議会の総会が開催されました。

本協議会は、北見市、経済団体、行政機関及び大学関係者が膝を交えて意見交換できる場として設置され、本学の吉田孝理事が会長を務めており、産業クラスター研究会オホーツクなどの活動を支援しています。

総会では、地域経済・産業の活性化に向けた平成28年度共同研究の取り組みとして、本学の元助教である小俣雅嗣氏から「再生可能エネルギーを利用した寒冷地域適応型植物工場に対する効率的養液使用法の構築」、日本赤十字北海道看護大学根本昌宏

教授からは「北見産食材を使用した冬期被災時にいのちを救う高カロリー非常食の研究開発」について、それぞれ報告がありました。

また、平成29年度の調査・研究として、根本教授の「冬期災害時に安全に使用できる仮設トイレの研究」、本学地域環境工学科武山眞弓准教授の「エゾシカ肉の肉質を分析しブランド価値向上を目指す研究」が共同研究として決定されました。

本協議会との連携を通して、今後も地域の効果的な活動へ繋げていきたいと思えます。



協議会総会の様子



共同研究を紹介する武山准教授

## 平成 29 年度構内美化作業を開始

(施 設 課)

本学で毎年恒例となっている「構内美化作業」が5月8日(火)から開始しました。当初、実施を予定していた5月7日(月)は雨天のため順延になりましたが、この日は晴天に恵まれ、絶好の作業日和となりました。

高橋信夫学長からの挨拶、及び本学の環境保全学生員会(KITeco)によるゴミの収集場所、収集場所における分別の説明をし

た後、約100名の参加者がそれぞれ所定の場所へ移動してゴミを拾いました。

この取り組みは9月下旬まで3週間に1回(夏季休暇期間を除く)、昼休みを利用して学生・教職員が協力して、構内及び周辺道路の清掃を実施するものです。

今年度も北海道の大学らしい、緑あふれる美しいキャンパスを維持できるよう、残り5回実施する予定です。



作業開始の挨拶をする高橋学長



作業の様子

## 初任職員研修を開催

(総務課)

5月9日(火)、今年度から新たに取り入れた初任職員研修の第1回目を開催しました。

この研修は平成28年度、及び平成29年4月1日付で本学に新規採用された常勤事務職員5名を対象に、谷川敦事務局長を講師として毎週火曜日に1時間程度、3ヶ月の長期間に渡って研修を行い、本学事務職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を身に付けることを目的としています。

初回であるこの日は、谷川次長より国立大学法人の事務職員としての自覚や、求められている教職協働の動向、これまでの経験を踏まえた仕事の進め方やビジネスマナ

ー等について説明がありました。参加した5名の事務職員は、所属部署や担当業務は様々ですが、日常業務にすぐにでも活かすことが可能な内容で行われた研修について、「緊張したが、大変勉強になった」、「『ほうれんそう』について知ってはいたが、スピードやタイミング、事後報告等、より意識する必要性を感じた」、「まだ日々の業務で精一杯だが、スケジューリングが大切だと分かった」等大変好評でした。

今後は、公文書の作成方法や法令等の解釈等について、研修中に与えた実践的な課題を次回の研修で参加者が回答する方式で行い、研修の内容は全ての事務職員にフィードバックすることとしています。



講義する谷川次長と参加者の様子



## 平成 28 年度学長裁量経費採択者による研究報告会を開催

(学長企画室)

5月9日(火)から10日(水)の2日間にわたり、平成28年度学長裁量経費採択者による研究報告会を開催しました。

開催の目的は、教職員に対して学長裁量経費の執行状況とその成果を広く公表することであり、今回初めての開催となりました。

学長裁量経費の採択にあたっては、学長がリーダーシップを発揮しながら、教育研究組織や学内資源配分等の見直しを進める上で、大学として重視する分野に配分することとしており、今年度は、特に本学が立地する地域の課題に着目した研究テーマから多く採択されています。

研究報告会では、地域課題解決を推進する5つのプロジェクト(ハッカ、一次産業、ハイドレート、旧北見市競馬場利活用、医療・人間工学)、参加者や個人で実施したものを含め計18人が、地元農産物に特化した

ものや、将来のエネルギーに関するものなどバラエティに富んだ研究報告を行い、2日間、延べ88人が真剣に耳を傾けました。

今回報告された研究テーマの中には、既に企業等との共同研究締結まで発展している研究や、今後、締結を予定している研究、あるいは特許出願準備中の研究など、成果が確実に実を結んでいるものが多数ありました。また、外部資金獲得が進展しているとともに、地域社会への貢献や地方創生に資する新たな研究も誕生しています。

高橋信夫学長からは、「今回報告された研究内容から、更なる異分野間の連携が深まり、本学の特色ある研究推進のきっかけとなることや、今までに無い新しい研究テーマが生まれることを願っています」とコメントがあり、今後の活動に期待を寄せていました。



研究成果を報告する採択者



研究報告会に出席した教職員ら

## 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会を開催

(社会連携推進センター)

5月24日(水)、本学において北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会が開催されました。

本協議会は、本学の社会連携推進センター(以下、CRC)を中心として、オホーツク地域の行政・民間機関との共同研究、研究交流、技術の指導・教育・開発などを推進することを目的として北見市が運営している組織です。この目的を達成するために、CRCは毎年本協議会から、地域に貢献していくための貴重な活動資金をご支援いただいております。

総会には、永田正記協議会会長をはじめ地域産業団体、及び公組織から委員の方々が、本学からは高橋信夫学長、鈴木聡一郎社会連携推進センター長ら関係者が出席し、

平成28年度の事業報告及び予算決算報告、並びに平成29年度の事業計画(案)及び予算(案)について審議されました。

また、本学の活動状況として、鈴木センター長から「冬季スポーツ科学研究の展開～研究成果と推進目標～」、有田敏彦教授から「遊休公施設活用による教育・研究・実践拠点の形成」について、それぞれ報告がありました。

委員からはオホーツク地域の一次産業における高付加価値についての質問が出るなど有意義な総会となりました。

これからも地域からのご支援・ご期待にしっかりと応えるよう、決意を新たにしました。



協議会総会の様子



研究活動を紹介する鈴木センター長

## = 日誌 =

### 4 月

- 3日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 4日 教授会、研究科委員会
- 5日 入学式
- 10日 社会連携推進センター運営会議、共用設備センター運営会議
- 12日 教育研究評議会
- 13日 経営協議会、学長選考会議、役員会、発明審査委員会
- 19日 学生よろず相談室会議
- 20日 地域連携・国際交流委員会、学生委員会、障がい学生支援室会議
- 21日 研究推進機構統括会議、教務委員会
- 24日 北見工業大学社会連携推進センター推進協議会総会
- 26日 役員会、アドミッションセンター運営会議
- 28日 高大連携連絡会議、就職支援室会議

### 5 月

- 8日 構内美化作業、社会連携推進センター運営会議、共用設備センター運営会議、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 9日 学長裁量経費採択者による研究報告会(～10日)
- 10日 編入学試験(推薦入試)出願受付(～16日)
- 11日 地域連携・国際交流委員会、教務委員会
- 12日 留学生のための就職ガイダンス
- 17日 教育研究評議会
- 18日 大学評価委員会
- 19日 学生委員会、就職ガイダンス
- 24日 発明審査委員会、研究推進機構統括会議
- 25日 不正防止対策室会議
- 30日 学力検査実施委員会
- 31日 編入学試験(推薦入試)面接試験